代表質問

代表質問とは

新年度予算が提案される３月議会において、所属議員３人以上の会派の代表者が行います。

質問は、会派を代表するものであることから、会派の政策や理念等を踏まえ、施政方針、当初予算および市政の重要課題に関して、市の見解を問います。

会派名簿

自由民主党明石
出雲有希子
石井宏法
井藤圭順
灰野修平
榎本和夫
千住啓介
三好宏
辰巳浩司

明石かがやきネット
林丸美
竹内きよ子
宮坂祐太
寺井吉広

明石維新の会
上田雅彦
中村茂雄
正木克幸
髙尾秀彰

公明党
河村和歌子
長尾博子
尾倉あき子
飯田伸子
国出拓志
梅田宏希

日本共産党
辻本達也

対話の会あかし
中西礼皇

市民の会
中川夏望
山下祥
金尾良信
黒田智子
山中裕司

スマイル会
家根谷敦子

（会派別・議席順／３月31日現在）

自由民主党明石

千住（せんじゅう）啓介（けいすけ）議員

令和7年度予算

問　明石サービスエリアへのスマートインターチェンジの設置については、10年来の懸案事項であるが、設置するのか。市の見解を聞く。

答　スマートインターチェンジの設置は、神戸西バイパスの整備と合わせた広域ネットワークの形成による利便性の向上や大久保インターチェンジ周辺の渋滞解消等が期待されるため、令和４年度から５年度にかけ設置基礎調査を実施した。その結果、設置することで市民や交通利用者の利便性を高める効果が確認された。

一方、設置場所を確保するためには、明石サービスエリアに隣接する石ケ谷公園の梅林の約80％を利用する必要があることや、周辺道路の交通量の増加が予想されるため、渋滞等の影響について調査を要するなど解決すべき課題があり、本事業を進めるにはその課題解決の見通しを立てる必要がある。

７年度は、大久保北部地域の自然環境を保全する考えの下、梅林の保全を前提とした整備ルートの検討や総事業費の算出等を行い、課題解決の可能性を検討する。

さらに、設置に向けた次のステップとして、国の準備段階調査箇所に選ばれる必要がある。その候補箇所の取りまとめは例年、年度末であるため、８年３月頃を目指して国や県等と調整を行っていく。

自然が残る大久保北部の市有地

公明党

梅田（うめだ）宏希（こうき）議員

南海トラフ巨大地震から市民を守る体制

問　南海トラフ巨大地震に備えた取り組みと、ペット同室避難の認識について問う。

答　同地震が発生した場合、本市も大きな被害が想定される。まずは、災害への備えとして、市民に家具の固定、水や食料等の用意、ハザードマップの確認等を広報あかしや防災出前講座等で周知するとともに、防災訓練等で市民が協働して避難し、避難所開設等を体験する機会を増やすなど、自助・共助力の向上に努める。なお、指定避難所には水、食料、毛布等、防災倉庫にはベッド、トイレ等の物資を備蓄し、飲料水兼用耐震性貯水槽には90万リットルの水を確保している。地震発生後は、テレビや防災メール等、あらゆる伝達手段を使い安全な場所への避難を呼びかける。その後、避難所を開設、運営するとともに医療救護、物資供給、ライフラインの復旧等に取り組む。

ペット同室避難については、動物アレルギーや動物が苦手な人への配慮、指定避難所である小中学校を速やかに再開する必要性から飼い主とペットを避難所内で別々に住み分けるペット同行避難を原則とする。さまざまな課題はあるが、飼い主とペットが一緒に避難できる場所を学校以外の施設も含めて柔軟に検討する。

その他の項目

○小学校給食の無償化

避難生活の充実が課題

市民の会

山中（やまなか）裕司（ゆうじ）議員

これからのまちづくり

問　市が進める対話と共創のまちづくりは手法であるため、目指すゴールを設定し、未来のビジョンを示すべきと考えるが、市長の考えを聞く。

答　対話と共創のまちづくりは、市民一人一人が安心して暮らせる笑顔あふれるやさしいまちを目指し、毎月開催するタウンミーティングの対話を通して市民ニーズや地域課題を把握してきた。市の施策等において、市民と共に対話するワークショップ等を実施し、子どもからは、１DAYプレーパーク、高齢者からは、ひと涼みスポットなど、市民の声を施策に反映してきた。

令和７年度は、対話と共創のまちづくり第２ステージとして、行政だけでは解決が困難な社会課題を産官学民の多様な主体と共に解決し、新たなまちの魅力の創造につなげていく。その実現に向けて、（仮称）対話と共創のウィークの開催や、（仮称）共創プラットフォームの構築など、革新的な取り組みを展開していく。

なお、７年度に策定するあかしSDGs後期戦略計画では、市民の幸福度を上げるために必要な方法等の中身をしっかりと精査しながら市民と共に取り組んでいきたい。

その他の項目

○ごみの減量化・再資源化の推進

○明石の豊かな自然を守る取組

対話と共創のまちづくり第２ステージへ